

2019年1月13日

IASSW (International Association of Schools of Social Work) 御中

IFSW(International Federation of Social Workers) 御中

ICSW(International Council of Social Welfare) 御中

IASSW、IFSW、およびICSWの世界、地域、国レベルにおける連携強化について

日本ソーシャルワーク教育学校連盟

日本ソーシャルワーカー連盟

2010年より、IASSW (International Association of Schools of Social Work)、IFSW(International Federation of Social Workers)、ICSW(International Council on Social Welfare)の3団体が合同で開催してきた「ソーシャルワークと社会開発に関する合同世界会議」(以下、合同世界会議)が、2020年はIASSWとICSWが合同でイタリア・リミニにおいて、IFSWはカナダ・カルガリーにおいて別途、開催されることになった。国内外において拡大する格差、貧困、災害、紛争、差別、環境破壊などソーシャルワーク・社会福祉を取り巻く深刻な現状に思いをいたせば、今まで以上にソーシャルワーク・社会福祉関連団体はそれぞれの固有性を尊重しながら相互理解を深め、信頼関係に基づく連携を強化していく必要がある。

3団体がこれまで合同で開催してきた合同世界会議は、こうした連携の象徴であり、相互交流の機会でもあった。しかしながら、2020年の合同世界会議が2つの場所において別々に開催されることになったことは大変遺憾であり、それぞれの会員にとって様々な意味でデメリットが大きい。

日本ソーシャルワーク教育学校連盟および日本ソーシャルワーカー連盟は、こうした現状に深い憂慮を示すとともに、ソーシャルワーク関連の国際組織が相互理解を一層深め、世界、地域、各国におけるソーシャルワーク・社会福祉の取り組みが一層発展することを願い、以下に示す改善策を講じることを提案する。

1 IASSW、IFSW、ICSWの連携強化を図る協定の明文化について

世界、地域、各国のレベルにおいて、ソーシャルワーク関連団体がそれぞれの固有性を尊

重しつつ、相互理解を深め、さらなる信頼関係を構築して協働する必要がある。しかしながら、各団体の体制や文化の相違、人的物的資源の制約、異なる言語での意思疎通のすれ違いなどにより、誤解や対立が生じやすいことが懸念される。

こうした現状に鑑み、とりわけこれまで合同世界会議を開催してきた IASSW、IFSW、ICSW は、今後の連携強化にむけた理念と体制を世界、地域、各国の各レベルで議論し、文書による協定書を締結することを提案する。協定書においては、合同世界会議の開催方針、手続きについても明記し、3団体の連携が一層図れるような内容を含むべきである。

2 IASSW、IFSW、ICSW の地域や各国における連携強化について

日々のソーシャルワーク・社会福祉の取り組みがローカルな場面で展開されること考えれば、関連団体の連携は各地域あるいは各国といったローカルな場面において具体的に推進される必要がある。これまで、日本ソーシャルワーク教育学校連盟と日本ソーシャルワーカー連盟は、グローバル定義やその日本における展開の策定作業などで協働してきたが、こうした連携や協働を一時的な取り組みとせず、日本の ICSW 団体も含めた連絡会議などを設置し、さらなる連携体制を確認・強化することを提案する。また、同様の連携体制の強化が、その他の地域や国においても積極的に推進されることを期待する。

3 ソーシャルワークと社会開発のためのグローバル・アジェンダに関する連携について

IASSW、IFSW、ICSW によって策定された「ソーシャルワークと社会開発のためのグローバル・アジェンダ」(2012年)は、これまで3団体の協働によって取り組まれてきており、2020年～2030年版の新たなアジェンダの改訂作業が始まっている。2020年の合同世界会議は別の場所で開催されるものの、引き続き三団体の連携のもとで、協働して次の10年のテーマを設定し取組を進める必要がある。またそのために、グローバルのレベルのみならず、各地域や各国においても協働して作業に取り組めるような仕組みを構築する必要がある。